

東北教区報 2024年3月号

あけぼの

発行所

日本聖公会 東北教区

仙台市青葉区国分町2-13-15

TEL 022-223-2349

FAX 022-223-2387

URL <https://nssk-tohoku.com/>シリーズ「東北の信徒への手紙」
教誨師の働きを通して思うこと

司祭 ステパノ 越山 哲也



私が盛岡聖公会の牧師に就任してから、岩手県にある二つの矯正施設、盛岡少年刑務所並びに盛岡少年院において教誨師活動が続けております。これは、1984年に当時の牧師であった村上秀久司祭が教誨師としての働きを始められたことが始まりでそれ以降、歴代の牧師（笹森伸兒司祭、佐藤真実司祭、村上達夫司祭（当時）、佐藤忠男司祭（当時）、中山茂司祭、林国秀司祭）が受け継いできています。

前任の林司祭より引き継が

せていただいた時は正直不安でした。何せ「刑務所」を訪れたことはこれまでになく、「どのような場所であるのか」「また受刑者とう向き合い何を話せば良いのだろうか」が全く想像つかなかったからです。加えて当時は新型コロナウィルス感染症禍真っ只中であつたため、私のように新人教誨師を対象とした「新人研修」もオンラインでの開催となり、元来行われていた他の教誨師の皆さんとの情報意見交換などが全く出来ませんでしたので、ますますその気持ちは大きくなっていました。

言葉信頼して、そして越山司祭の生きた言葉をお話しすれば良いと思いますよ」と助言を頂き、少し気持ちが楽になりました。借り物の言葉ではなく自分の言葉で相手と向き合っていくという「あなた」と「わたし」の関係こそ、主イエスが大切にされたことです。

そのようなことがあつた後に、初めての教誨師としての日を迎えました。用意されていた部屋には一人の受刑者の方が待つておられました。短く自己紹介をしてから一緒に聖書を読み、お話しをしました。

大変緊張しましたが、私自身のこれまでの苦しかった経験と語り、そんな時に聖書のみ言葉が自分を支えてくれたことを一生懸命に語りました。話し終わってから感想を聴いてみると「牧師さんいろいろな経験をされているんですね。少しほっとしました」という声を伺い、私自身も内心安心したことを覚えています。このように相手に思いが届くという経験は嬉しいもので

すよね。それ以降、毎月第一火曜日の夕方に盛岡少年刑務所に出向き、盛岡少年院には年に1〜2回出向いてお話をさせていただいております。毎回毎回試行錯誤の繰り返しですが、受刑者の皆さんは熱心に聖書のみ言葉に耳を傾けてくださいます。

受刑者の方はそれぞれ罪を犯して刑務所に収容されて刑期を過ごしています。そして、その犯してしまった罪を悔やみ、再出発したいと願っておられます。刑務所の職員の方も皆それを心から願い、日々向き合っておられます。教誨師として私が大切にしていることは「み言葉の力を信頼する」ということです。み言葉を通して主イエス様が彼らの心に触れ、彼らに生きる希望を与えてくださることを信じて教誨師活動が続けて参りたいと思います。

教誨師活動は私個人ではなく盛岡聖公会の働き、キリストの教会の大切な働きであると思います。どうかお祈りの内にお覚えください。

(盛岡聖公会牧師)

執行機関拡大会議報告

総主事 司祭 ヨハネ 八木 正言

去る1月20日(土)午前10時から、仙台基督教会を会場に執行機関拡大合同会議を開催しました。これは毎年この時期に、東北教区のこれから始まる一年の宣教の働きについてのヴィジョンを共有し、それぞれの執行機関各グループの活動に活かしていただくことを目的に開催しているものです。今年も、教区主教をはじめ、常置委員、各主事・主査、9つの執行機関各グループ・リーダーに加え、執行機関外の3つの会議体、すなわち教区展望会議、ハラスメント防止・対策委員会、教役者聖職候補生後援会のリーダーと2つのプロジェクト・リーダー、総勢24名が参集しました。

会の冒頭、「能登半島地震によって被災された方々のための祈り」が捧げられた後、宣教協働を進める北海道教区からお招きした吉野暁生司祭(北海道教区宣教活動推進部長)の紹介、新たに主事、主

査、そしてグループ・リーダーになられた方々の紹介も含め、各々の自己紹介をもってプログラムは始まりました。

午前中は、東北教区「第108教区会期組織図」の確認の後、「2023年宣教協議会報告」がなされ、続いて総主事から発題を行いました。

「2023年宣教協議会報告」では、吉野暁生司祭から、2012年の宣教協議会以降の北海道教区の取り組みとして、「参加者の集い」を発足、その後それが「宣教ミーティング」へとつながり、その働きが「入院患者へのミニストリー」や「エンディング・ノート」の作成、「各教会でのミッション・ステートメントの作成」、「交換説教」の実践に至ったことなどをうかがいました。「宣教協議会」の実りが教区に、さらには各個教会にまで行き渡るための実践について触れ、昨秋の「2023年宣教協議会」の実りを東北教区内各教会にどう受け継ぐのか

が課題である私たちにとって有意義な報告をいただくことができました。

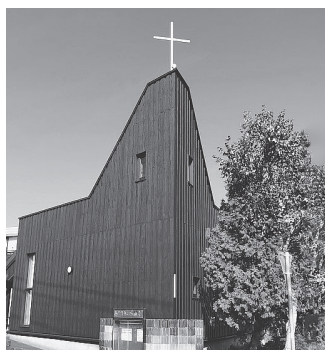
続いて総主事からの「わたしたち東北教区の宣教を思い描くために」をテーマに、各個人、あるいは各個教会としてではなく、教区や聖公会として、本来の「共同体性」をどのように復活させるかが、実は遠回りのようでいて喫緊の取り組むべき宣教課題であると問いかけました。

午後からは、教区の宣教活動を進める上での事務的な側面、すなわち予算の申請と執行について、執行行事に関わる計画と収支報告について、さらには宣教活動援助金、研学資金の申請についての具体的な話がありました。各執行機関が活動を進めるにあたり、こうした實際面を効率的に進めることは教区事務所との協働の意味でも重要であり、一同メモを取りながら聞き入りました。

を求めるというものです。それがこれまでの日本の教会の信仰の一般的パターンといっても過言ではないと思います。しかし、自分を見つめるだけで、現実の生活の場に真正面から向き合うことのない信仰のままだと、いつまでたっても教会は歴史の創造には取り残されます。いつまでも「個」のままです。「個」である限り周囲への影響力がないのは当然でしょう。信仰の光の中で現実を生きようとする「個」が互いに話し合い、ぶつかりあって、はじめて横のつながりが生まれ、生きた流れが育まれるのではないのでしょうか。

そしてそれはたとえ小さなものであっても一つの歴史になり、それがやがては日本の歴史の創造に加わることで大きな力に発展していくのだと思うのです。人的にも財的にも困難を極める今だからこそ、敢えて「共同体性」を意識し、キリストの教会の活動に取り組んでいきたい、そう思います。

東北教区の2024年のキー・ワードは「ワン・チーム (one team)」です！



新札幌聖ニコラス教会



1974年5月定期総会で札幌圏第4の教会の夢が全教区に明かされる。1979年11月豊平区の借家に転籍者6名で伝道所誕生。1989年9月白石区南郷のマンション一室に移転、牧師が建物管理と宣教活動。苦難を経て1992年11月厚別区にニコラスの箱舟が着地定住。夢は「教会や地域の人々との交わりによって信仰生活を豊かにし、求道者や弱っている隣人の思いを大切にする教会の実現」。現在堅信受領者数25名、平均十数名で礼拝を守る。

洗礼・堅信式

2024年12月25日
青森聖アンデレ教会

「素敵なクリスマスを迎えて」

プリスキラ 菊田 直未

しんと雪が降りつもるクリスマスの日、私たちが親子の洗礼式、そして私の堅信式を無事に迎えることができました。

この日を迎えるため、準備を進めてくださった長谷川主教様をはじめ、関係者の皆様、感謝申し上げます。

2023年4月のイースターに、初めて聖

アンデレ教会を訪れました。それは子どもの幼稚園がキリスト教で、教会ってどんなところだろう？と疑問に思ったのがきっかけでした。はじめての訪問でも快く迎えてくださり、子どもたちもすぐ場に慣れたのを覚えております。



また入信のきっかけは、数回礼拝に参加し、洗礼を受けるにはどうしたらいいか？という好奇心からくるものでした。

洗礼、堅信を受けるまでに長谷川主教様から直々に学び、堅苦しい感じもなく楽しい時間を過ごすことができました。洗礼・堅信式当日はすこし緊張しましたが、子どもたちもしっかりと式に参加できていたのでとても安心しました。私たちにとって今回のクリスマスは素敵な特別の日となりました。貴重な体験をありがとうございました。

各教区正義と平和担当者の集い・参加報告

司祭 パウロ 渡部 拓

1月11～12日に「各教区正義と平和担当者の集い」が、4年ぶりに「ナザレの家」にて対面式で行われました。

その中で各教区や各管区プロジェクトの報告と共に、「正義と平和」の話題

を問題にすることの難しさについても議論が行われ、多くの現場において、信仰や教会生活で「個人的なものの」「これまで続けてきた伝統や在り方を変えたくない」といった思いに押し込んで考えてしまいがちな現状が、これらの問題への拒否反応や関心の薄さに繋がってしまっているのではないかといった分析がなされたりしました。

そしてその上で「正義と平和」とは、私たちがキリストの教会であり続ける限り、発信し続ける必要があり、議論し続けるものであることを確認した集いとなりました。

公 示

救主降生2024年2月2日

日本聖公会東北教区主教
主教 フランシス 長谷川清純 ㊞

下記の人事異動を発令します。

主教 フランシス 長谷川 清純

2024年3月31日付 青森聖アンデレ教会管理牧師および松丘聖ミカエル教会管理牧師の任を解く。

2024年4月1日付 仙台聖フランシス教会管理牧師に任命する。(仙台聖フランシス教会居住)

司祭 ドミニコ 李 賛熙

2024年3月31日付 青森聖アンデレ教会および八戸聖ルカ教会ならびに大館聖パウロ教会協働の任を解く。

2024年4月1日付 青森聖アンデレ教会管理牧師および松丘聖ミカエル教会管理牧師に任命する。

司祭 ステパノ 越山 哲也

2024年4月1日付 大館聖パウロ教会協働を命ずる。

司祭 ヨハネ 八木 正言

2024年3月31日付 仙台聖フランシス教会管理牧師の任を解く。

2024年4月1日付 山形聖ペテロ教会管理牧師に任命する。

司祭 ステパノ 涌井 康福

2024年4月1日付 米沢聖ヨハネ教会管理牧師に任命する。

司祭 テモテ 遠藤 洋介

2024年3月31日付 神戸教区からの出向期間満了により、山形聖ペテロ教会牧師および米沢聖ヨハネ教会管理牧師ならびに仙台基督教会聖ペテロ伝道所協働の任を解く。

主教 ヨハネ 佐藤 忠男

2024年4月1日付 司祭ドミニコ李 賛熙のもとで弘前昇天教会において礼拝協力を委嘱する。ただし、法規第53条第2項を準用し、任期を1年間とする。

主教 ヨハネ 加藤 博道

2024年4月1日付 主教 フランシス 長谷川清純のもとで、仙台聖フランシス教会において礼拝協力を委嘱する。司祭 ヨハネ 八木正言のもとで、仙台基督教会と仙台基督教会聖ペテロ伝道所において礼拝協力を委嘱する。ただし、法規第53条第2項を準用し、任期をいずれも1年間とする。

パウロ 有我 忠幸

2024年2月2日付 聖職候補生に認可する。

以 上

青森聖アンデレ教会

「参加したい」などの感想をいただきました。信徒が少なくなっている当教会では様々な案を出したり計画したりしていますが、まだ先が見えないです。神さまが示してくれた道を歩み、守りたいです。

◆1月17日、被災者支援の水曜喫茶を行いました。参加者は8名です。今回も各方面から差し入れをいただきました。皆さんに感謝します。

◇「3月11日東日本大震災13周年記念礼拝」は、例年通りそれぞれの最寄りの拠点会場にお集まりいただき、祈りを献げます。福島聖ステパノ教会の会場からは、ライブ配信を予定しています。また、講演会の講師には片岡輝美さんをお迎えします。片岡さんは会津若松市在住、日本基督教団若松栄町教会会員で、「会津放射能情報センター」代表、「子ども脱被ばく裁判の会」、「これ以上海を汚すな！市民会議」などの活動をされています。講演会は福島のことにも、たちの原発問題をテーマに、

報告事項

長谷川主教との対談形式で行います。対談によりテーマの問題点が絞られ分かりやすくなるよう、企画しています。多くの皆さんにご視聴いただきたいと思います。教区保育連盟の皆さんとも協働し、「命」について考えることを提案していきたいと考えています。

▼教役者人事案について…教
区主教より諮問があり、協
議の結果これを承認するこ
とを答申した。

▼聖職候補生志願者面談について・有我忠幸氏の聖職候補生志願者面談を行い、審議の結果、同氏を聖職候補生として推挙することを確認。

▼総務主事より「旅費支給基準交通費の内燃料代16円／km維持」についての審議要請を受け、これを承認。

◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇
 3月3日は「聖公会生野セン
 ターのため」の主日です。太
 阪市生野区で地域と共に歩む
 働きを覚え、献金をお獻げく
 ださい。

3月6日(水) 午前10時
於 主教座聖堂
司式・説教 長谷川清純 主教

司祭 ペテロ 山本 秀治

1978年3月3日逝去

司祭 ペテロ 松坂 勝雄

1993年3月9日逝去

司祭 パウロ 村上 秀久

1974年3月12日逝去

宣教師
Miss Flora M. Bristowe

1942年3月13日逝去

司祭パウロ林由三

1970年3月15日逝去

司祭 サムエル 植松 謙爾

1978年3月19日逝去

司祭 テモテ 佐藤 光道

2016年3月23日逝去

会津若松市在住。「会津放射能情報センター」代表、「子ども脱被ばく裁判の会」「宗教者が核燃料サイクル事業廃止を求める裁判原告」他、様々な脱原発運動で活動。

▲講演会QR